

# 恵泉女学園園芸短期大学における高齢者を対象とした園芸活動

西村 悟郎

## Horticultural Activity for Aged People at Keisen College of Horticulture

Goro NISHIMURA

### Summary

Horticultural activity was conducted by the students of Keisen College of Horticulture for aged people at the Senshinsou special nursing home for the elderly from 1997 to 2004. There are two main categories in student's activity. One is participating in the daily routine of the facility. Students stay a half day in the facility and help sweeping, serving afternoon tea, and have a chat with aged people who participate horticultural activity to have a good relationship. Students take care of the plants which grow in the container used for horticultural activity. Another category is horticultural activity which is conducted once a month. 12 to 20 people participate the activities. The effect of horticultural activity and some problems occurred during activities were discussed.

### 緒言

恵泉女学園園芸短期大学の西村研究室では専修生が1997年から特別養護老人ホーム泉心荘で園芸活動を行ってきた。園芸活動の参加者は全員が施設の入所者で、普段は戸外に出る機会の少ない生活を送っている。園芸活動が高齢者の心身の健全化に有効であることは広く認められており(松尾 1998; 小浦他 2003), 泉心荘でもその効果を確かめるために園芸活動を行った。本論分では8年間の実施の記録を紹介するとともに、実施上の問題点について考察した。

### 実践

#### 1. 泉心荘の概要

##### 1) 施設の名称

特別養護老人ホーム 泉心荘

##### 2) 所在地

神奈川県伊勢原市三ノ宮 511-1  
(学校から自転車で15分の場所)

##### 3) 入所定員

一般入所 50名, 短期入所 20名

#### 4) 沿革

1990年に特別養護老人ホームとしてオープンし、以来、在宅支援センターを併設してデイサービス, 短期入所, 訪問入浴サービス, 配食サービスなどを提供。2000年からは介護保険法に基づき、県から在宅介護支援事業者, 介護老人福祉施設, 訪問介護, 通所介護, 短期入所生活介護の指定を受けている。

#### 5) 一般入居者の性別と年齢 (2002年度現在)

##### (1) 性別

男性 13名

女性 36名

##### (2) 年齢

	65~ 69	70~ 74	75~ 79	80~ 84	85~ 89	90歳 ~
男性	1	3	2	5	2	0名
女性	0	2	6	8	12	8
合計	1	5	8	13	14	8

#### 2. 活動内容

活動は2つの項目からなる。

##### 1) 泉心荘での週1回のボランティア活動

毎週一日午後の時間、泉心荘に出かけてボランティア活動を行う。内容はおやつ準備と片付け、入所者との会話、月一回の園芸活動のための準備と植物の世話などが含まれる。目的としては入所者の日常生活を知ること、入所者と顔見知りになること、園芸活動に用いる植物の世話などがあげられる。

## 2) 月1回の園芸活動の実施。

5月から7月までの3回と、10月から1月までの4回、合計7回の園芸活動を計画し実施する。この園芸活動は「いきいき花クラブ」(以下「花クラブ」とよぶ)と名付けられている。

## 3. ボランティア活動の記録

週一回行うボランティア活動の内容について紹介する(木之下 1999)。活動の内容としては居室の掃除、おやつ準備、居住者との会話・交流、花クラブの打ち合わせと準備、植物の管理などが行われている。当初の目的だった、居住者との交流による花クラブの円滑な運営が目的通りに行われたことが伺える。

5月11日(月)

寮母長より居住者に紹介。おやつのお茶入れ。Tさんとアサガオの話。

ミニトマト苗、ヒマワリ種子購入。

16日(土)

第1回花クラブ(ミニトマトの植えつけ、ヒマワリの播種)

18日(月)

各居室掃除。花クラブ参加者からお礼を言われる。

6月4日(月)

ミニトマトの追肥

8日(木)

ヒマワリの花壇の除草と一部定植。

Tさんの個人のアサガオに支柱。

13日(土)

第2回花クラブ(ハーブの挿し芽)

15日(月)

切花用ヒマワリの定植

22日(月)

ハーブ、ミニトマト、ヒマワリの観察。Tさんの短歌を見せてもらう。

29日(月)

ミニトマト、ヒマワリの手入れ。Hさんから歴史の話を聞く。

7月12日(土)

第3回花クラブ(ミニトマトの収穫・試食)  
——夏休み——

9月21日(月)

ミニトマトの片付け。Fさんの人生の話を聞く。

10月5日(月)

ヒマワリの種を煎って試食。次回の花クラブの球根を購入。

19日(月)

球根植えつけ用土、肥料の購入。参加者から次のプログラムについて聞かれる。

24日(土)

第4回花クラブ(チューリップ、ムスカリ球根植えつけ)

26日(月)

余った球根の植えつけ。Mさんのお手拭の整理を手伝う。

11月9日(月)

球根類の観察。ムスカリ発芽。Fさんが寂しそうだったので声をかける。

16日(土)

大学農場で作ったキクの切花をたくさん持って行って施設内に飾る。

28日(土)

第5回花クラブ(ドライフラワーのアレンジメント)

30日(月)

寒い一日。各居室を訪ねて話をする。Fさんが自作の俳句を見せて下さった。

12月7日(月)

次回の花クラブについて打ち合わせ。MさんとSさんのお手拭きの整理を手伝う。

12日(土)

第6回花クラブ(クリスマスリース作り)

1月11日(月)

植物の観察。打ち合わせ。

18日(月)

植物の観察、灌水。Fさんと球根の発芽について話す。

25日(月)

植物の灌水。Sさんと次回の花クラブについて話す。

30日(土)

第7回花クラブ(カイワレダイコン作り)

#### 4. 園芸活動（花クラブ）の実施

##### 1) 実施手順

学生は花クラブで実施する内容について、予め寮母長と打ち合わせをし、それに基づいて実施計画書を作成した。そして、植物材料や資材を調達して当日に臨んだ。実施時間は長時間による疲労を避けるために1時間と決めた。終了後は、所定の評価表に寮母長あるいは職員が1部、そして学生本人が1部記入して反省・評価とした。

ボランティア活動を含めて活動日毎に、出席表に寮母長の捺印を頂いた。また、学年の最後には、寮母長および施設長の名前で総合評価を受けた。

##### 2) 実施内容

1997年度から2004年度までの8年間の園芸活動（「花クラブ」）の実施内容、参加人数、学生人数、職員数を第1表に示した。毎年共通して行われているのは4・5月のミニトマトの定植と7月の試食、10月のチューリップ球根植えつけである。ミニトマトは病気に強く育てやすいこと、また小粒で食べやすいことから、このような実践には適している。10月に植えたチューリップは翌春開花して、施設の玄関を飾る。2002年度からはジャガイモの植えつけと試食、2003年度からはサツマイモの植えつけと試食が加わっている。11月からは戸外は寒くなるので室内の作業になり、押し花の作成、ポプリ作り、布の草木染めなどが行われ、12月にはクリスマスらしくリースやツリー作りが行われている。また、カイワレダイコンやモヤシの播種と収穫も行われた。

参加定員は寮母長との相談で10名と決めてあったが、毎回12名ほどの参加があった。また、作業には参加しない見学者も毎回5～9名ほどあった。見学者のほとんどは車椅子使用者であった。作業を伴わないミニトマト、ジャガイモ、サツマイモなどの試食会には20名を超える参加があった。

##### 3) 実施記録

実施計画書の例を紹介する（荒木・湯本2004）。

###### (1) 活動日時

2003年4月26日（土） 14:00～15:00

###### (2) 活動内容

ミニトマトの定植、ジャガイモの植えつけ。  
ミニトマトとジャガイモを取り上げた理由は、寮母長より花栽培より収穫・試食のできる野菜がよいという要望があったこと。ミニトマトは夏野菜の代表であり、たくさん収穫ができること。また、病害虫にも強く無農薬栽培が可能であること。ジャガイモは誰もが知っている野菜であり、栽培が難しいことなどがあげられる。

###### (3) 参加者

泉心荘入居者10名予定、職員数名、学生2名、西村悟郎（指導教員）

###### (4) 目的

陽射しも暖かく過しやすくなったこの時期に、外に出て作業して汗を流すことにより、心地良い疲労感と爽快感を感じていただきたい。ミニトマトとジャガイモを植えることで、収穫までの楽しみに繋がって欲しい。

###### (5) 材料

<ミニトマトについて>

- ・ミニトマトの苗／20株  
（1プランターに2株）
- ・市販の培養土／適量
- ・プランター／10個

<ジャガイモについて>

- ・種イモ／5個  
（1プランターに半分を2つ）
- ・市販の培養土／適量
- ・プランター／5個

<用具>

- ・洗面器（土を入れる）／1人1個
- ・移植小手／1人1本

###### (6) 準備

- ①土作り（市販の培養土を5袋追加して混ぜる）
- ②土を洗面器に入れておく
- ③プランター内の土を入れる位置に印をつける
- ④プランターの半分くらいのところまで土を入れておく
- ⑤ベンチの上にプランターを置き、各材料を並べておく
- ⑥ホワイトボードに説明の紙を張る

###### (7) 手順

実習生（荒木・湯本）の自己紹介。植物の説明をした後、作業の流れを模造紙を使って

説明.

<ミニトマトの定植>

- ①ミニトマトの苗をポットから出し、等間隔に土の上に置く
- ②プランターの印がついたところまで土を入れる
- ③軽く手で土を押して鎮圧する

<ジャガイモの植えつけ>

- ①プランターの印のついたところまで土を入れる
- ②種イモを 30cm 間隔に土の上に置く
- ③深さ 10cm ほど土を掘り、そこにイモを植える。

(8) 管理

ミニトマトに支柱を立て、生長に応じてわき芽を取り、追肥する。

ジャガイモは生長に応じて芽かき、土寄せ、追肥をする。

灌水、除草を適宜行う。

(9) 期待される療法的効果

ミニトマトの定植は毎年行っているのですが、今年も作業することによって春の季節感を意識することができる。生きている植物との触れ合いは、五感の刺激となって脳に伝わり、脳の活性化に繋がる。収穫の楽しみが生まれ、未来への期待へと繋がる。

## 評価

### 1. 評価表

評価表の例を示す。①は職員が②は学生が書いた評価。(荒木・湯本 2004)

職員と学生の評価を比較してみると、職員は好意的に評価し、学生は自分の足りなかった点を素直に述べていることがわかる。特に準備と実施時間内の時間配分については、この回が最初の回ということもあって、遅れ気味であったことを学生は反省している。目的が達成できたかという項目では、学生も達成できたと述べている点から、この実践は成功であったといえる。特に、よかった点として、学生が皆さんの笑顔が見られたことを挙げていることが、この回の成功を物語っている。次回に繋がる評価表にするには、各項目についてもっと詳しく評価をする必要があるかもしれない。

活動内容	ミニトマトとジャガイモの植えつけ
参加者	10名
見学者	9名
スタッフ	実習生2名 職員5名
活動時間	14:00～15:00
活動場所	泉心荘中庭

1) 参加者の様子 (全体的に見て)

- ①風が強く寒がられる方もいらっしゃいましたが、参加者の方も見学者の方もとても楽しまれていた。
- ②天候もよく皆さんの集まりもとてもよかった。初めてであったが多くの人が参加して下った。

2) 今日の活動はスムーズに行われたか

- ①準備、誘導、片付けともスムーズに行うことができた。
- ②何をやっていいかわからず、戸惑ってばかりだった。

3) 説明は的確だったか

- ①丁寧にとっても分かりやすく説明された。
- ②初めてのせい緊張して声小さくなった。早口になったりした。

4) 準備は十分に行われたか

- ①十分であった。
- ②開始時間になっても準備が終わらず、参加者の皆さんを待たせてしまった。

5) 時間配分はよかったか

- ①丁度よかった
- ②少しおやつ時間に食い込んでしまった。

6) 今日の活動目的の達成したか

- ①達成できた。
- ②達成できたと思う。

7) よかった点。

- ①天気にも恵まれ、土に触れることに懐かしがられていた。暖かい風にあたることもでき、普段あまり外に出られない利用者さん達にとってとてもよい時間であったと思う。
- ②参加者の方が楽しそうに作業をしていらっしゃる、皆さんの笑顔が見られたこと。

## 8) 反省すべき点

- ①特になし  
 ②準備が遅れ参加者の方を待たせてしまった。  
 次回はもう少し早めに準備を始めようと思う。

## 9) 感想

- ①皆さんジャガイモとミニトマトができるのを  
 楽しみにされながら苗を丁寧に植えておられた。  
 ②説明の時に小声になったり、早口になったり  
 と、お年寄りの方に聞き取りやすいように注  
 意しなければならない点が多くあった。

## 2. アンケート

花クラブの実施についての参加者の感想を求めた(中村・松本 2002)。この結果を見ると参加者の多くが花クラブの活動を楽しんでいる。また、楽しい作業の内容としてはミニトマトの植え付けと試食を挙げている。植物を植えつけから収穫までが繋がっている内容が好まれると考えられる。戸外の作業は好きな人が多い。参加者には車椅子の人が多く、普段は戸外に出る機会が少ないので、花クラブの活動は戸外に出るよい機会となっている。また、土に接する作業は花クラブでしかできない体験であるので、園芸の好きな方にはこの上ない楽しみになっているようである。月1回という花クラブの開催頻度に付いては、それでよしという人が、もっと多くの回数を求める人より多かった。これはもっと植物に触れたいのではないかと予想していた我々にとっては意外であったが、お年寄りにとっては月1回くらいの園芸作業が適当なのかもしれない。自分が植えた植物がどのように生長するか知りたいと思いませんかという問には、半分の人が継続して植物を見たいと答え、半分は咲いた時や収穫が楽しめればよいとしている。これは植物に対する興味の個人差ということも考えられるが、それより施設の中で暮らしている場合、気持が幾分消極的になり、継続的に物事をする意欲が減退した結果と考えることもできる。園芸作業に興味をお持ちですかという問に、「ある」が9名、「ない」が6名という結果については「ない」の6名という多さに驚かされる。これも上に述べた、気持の消極性が出ているのではないかと考えられる。花クラブには参加するが、園芸作業に興味がありますかと改めて問われると、「ない」と答えてしまうのであろう。

## ○泉心荘におけるアンケートの結果

(中村・松本 2001年12月1日実施)

解答者数 15名

- |   |    |
|---|----|
| 1. 今までのいきいき花クラブの活動はどうでしたか               |    |
| 1) 楽しい                                  | 13 |
| 2) まあまあ楽しい                              | 2  |
| 3) つまらない                                | 0  |
| 2. 第1~4回の中でどの作業が楽しかったですか(複数解答)          |    |
| 1) ミニトマトの植え付け                           | 9  |
| 2) モヤシの播種                               | 3  |
| 3) ハーブの挿し芽                              | 2  |
| 4) ミニトマトの試食会                            | 7  |
| 5) チューリップの植え付け                          | 4  |
| 3. 戸外での作業はお好きですか                        |    |
| 1) 好き                                   | 9  |
| 2) まあまあ好き                               | 4  |
| 3) あまり外に出たくない                           | 1  |
| 4) 嫌い                                   | 1  |
| 4. いきいき花クラブを月1回行うことをどう思いますか             |    |
| 1) もっと行って欲しい                            | 4  |
| 2) 今のままでよい                              | 11 |
| 3) やらなくてよい                              | 0  |
| 5. ご自分で植えた作物・植物がどのように生長して行くか知りたいと思いませんか |    |
| 1) ぜひ知りたい                               | 7  |
| 2) 咲いた時や収穫が楽しめればよい                      | 7  |
| 3) 作業だけでよい                              | 1  |
| 6. 園芸作業に興味をお持ちですか                       |    |
| 1) ある                                   | 9  |
| 2) ない                                   | 6  |
| 7. 興味あるとお答えになった方は、どんな作業がしたいですか          |    |
| 自分で植えた花で押し花がしたい                         |    |
| 何か植えてみたい                                |    |
| 果物を植えてみたい                               |    |
| 田畑や土を耕したい                               |    |
| 運動したい                                   |    |
| 種まきから生長をみたい                             |    |

## 考 察

- 1) 作業実践上の問題点  
 中村・松本(2002)は、作業実践上の問題点について次のように考察している。  
 『第7回(貼り絵作成とモヤシ播種)では材料が多

く、花材をひとつずつ紹介していくと説明が長引き次第にお年寄りが興味を失っていく様子が見られた。みなさん理解することに積極的でなかったように思われる。不満や文句が出て、「分からないわよ」と退席される方もいた。作業後、Fさんがおっしゃった。「今回の作業は発想力を必要とする作業で、初め自分も戸惑った。私らのような年寄りには頭が働かん。全て自分自身で発想することから、日々離れているので難しいんだ。」この言葉から、ここではお年寄りは日々他者に管理される生活の中で自発的に発想して物事を行う機会が減ってきているのだらうと推測した。寮母長のお話では、頭で理解しても行動に直結しなかったり、行動しても時間がかかり、お年寄り自身ももどかしさを感じているとのことだった。

身体能力の低下によって、一度頭で理解した事も行動に直結せず、体がついてこないことへの苛立ちがお年寄りに多くの負担を与え、集中力が途切れたり、不満を口にしたり、途中で作業に対する意欲を失ったりといった状況を生んでいる。こういう状況を改善するためにはどのようにしたらよいか。まず、大切なことはお年寄りとのコミュニケーションをもっと深めることだと思う。それには、週1回のボランティアの時間をどう活かすかが大切であろう。私達はおやつ準備とお話をしたが、もっとお年寄りの好きそうな分野にアンテナを張って豊富な話題を用意しておればお年寄りとの会話もより楽しいものになったに違いない。次に大切なことは、寮母さんの働きである。つまり、作業中寮母さんの手助けがとても重要だった。私達は施設の使い勝手やお年寄りの不自由な点が把握できていなかったの、おろおろする場面があった。その点、お年寄り一人一人の状況を把握した寮母さんが一人でもお手伝いして下さると、作業を進行するのがとてもスムーズだった。』

以上の考察は、高齢者に対する園芸活動の実践上に重要な示唆を与えている。まず、実践する内容は相手の思考状況に合わせて準備されなければならない。また、時間的に余裕のある内容とする必要がある。あまり高度な思考能力を要求する内容であったり、時間的余裕がないと、それについていけない人の苛立ちを引き起こす。その苛立ちを和らげるのが相手との心の通い合う会話である。そのためには、実践者とお年寄りとの意思疎通がしっかりなされていなければならない。つまり、園芸の実践だけが出来ればよいというのではなく、相手の気持ちに合わせて実践が進められる事が大切である。その際、

重要になるのが、お年寄り個人の身体的、また精神的状況を把握している人の存在である。参加者の日常の状態をよく知っている職員（寮母）の存在がスムーズな活動の進行には欠かせない。

## 2) 好まれる実習

好まれる実習について荒木・湯本(2004)は次のように書いている。「戸外と室内の両方の作業を行ったが、普段戸外に出る機会が少ないせいか、戸外の作業のほうが喜ばれ、積極的に体を動かす姿が見られた。全7回プログラムを行ってみて、定植から試食まで行ったミニトマト、ジャガイモ、サツマイモが好評だった。定植した時には生長するのをとっても楽しみにしている様子で、土の中からサツマイモが出てきた時は歓声が上がった。試食の時には普段花クラブに参加されない方も大勢来られ、共に収穫を喜び、おいしく食べることができた。統一性のある作業は内容も充実しておりやり甲斐がある。」以上の考察は、普段戸外に出る機会の少ない施設内のお年寄りが、戸外に出て適度な作業をすることがどれだけ好まれているかを物語っている。また、実習内容としては植え付けから収穫まで連続性のあるものが好まれたこと。特に最後に収穫と試食の楽しみのあるミニトマト、ジャガイモ、サツマイモが好まれたということは、施設にすむお年寄りや園芸活動のプログラムを組む場合、どのような内容が好まれるかという点で重要な示唆を与えていると言える。

## 3) 馴染みの薄い植物を用いた場合対応

お年寄りの馴染みの薄い植物を選んだ場合のことを中村・松本(2002)は次の様に述べている。「第2回目のハーブ挿し木ではお年寄りの馴染みの薄い材料があったために、はじめのうちお年寄りはあまり興味を示さなかったが、説明をしたり香りを嗅いでいただいているうち、次第に興味を持ち始めて下さった。ハーブの香りは臭覚に刺激を与える。お年寄りにより香りの好き嫌いが存在するが、五感による刺激は脳の活性化につながるため、お年寄りに馴染みのある材料で、しかも香りのある植物、例えばシソなどを使用すると知的効果も期待できたと思う。」お年寄りにとってハーブ類などの新しい植物は、馴染みがないので敬遠されがちである。しかし、ハーブ類は臭覚を通して脳に適度な刺激を与えられる。作業の導入時に、工夫をしてお年寄りに親しみを持っていただく必要がある。

泉心荘における園芸活動の担当者

加藤温子, 木之下友海, 額田智香子, 小野綾子,  
中村真澄, 松本葉月, 古川真希, 柏木 薫,  
荒木 唯, 湯本恵美, 中尾麻子

謝 辞

活動の場を提供して下さった泉心荘, および園芸活動を行う際いつもお世話になった比企野テル子寮母長, 小沢喜久子主任, 入居所の皆様にお礼を申し上げます。

引用文献

松尾英輔 1998 園芸療法を探る. p.133-135 グリーン情報  
加藤温子 1998 園芸療法—高齢者における実践— 惠泉女学園園芸短期大学卒業論文  
木之下友海 1999 特別養護老人ホーム泉心荘「いきいき花クラブ」における園芸療法の実践 惠泉女学園園芸短期大学卒業論文  
額田智香子 2000 特別養護老人ホーム泉心荘「いきいき花クラブ」における園芸療法の実践 惠泉女学園園芸短期大学卒業論文

小野綾子 2001 特別養護老人ホーム泉心荘「いきいき花クラブ」における園芸療法の実践 惠泉女学園園芸短期大学卒業論文  
中村真澄・松本葉月 2002 特別養護老人ホーム泉心荘「いきいき花クラブ」および高森台花の会における園芸療法 惠泉女学園園芸短期大学卒業論文  
小浦誠吾・山岸主門・野村二郎・牧野 明・土屋利紀 2003 土いじりを主とした園芸活動の効果 —高齢の多発性脳梗塞患者への実践事例— 人間・植物関係学会雑誌 2(2): 11-14  
柏木 薫・古川真希 2003 特別養護老人ホーム泉心荘「いきいき花クラブ」および高森台花の会における園芸療法 惠泉女学園園芸短期大学卒業論文  
荒木 唯・湯本恵美 2004 特別養護老人ホーム泉心荘「いきいき花クラブ」および高森台花の会における園芸療法 惠泉女学園園芸短期大学卒業論文  
中尾麻子 2005 特別養護老人ホーム泉心荘「いきいき花クラブ」および高森台花の会における園芸療法 惠泉女学園園芸短期大学卒業論文

第1図 園芸活動風景 (ミニトマトの支柱立て)



第2図 一緒にジャガイモを植える



第1表 特別養護老人ホーム「泉心荘」における園芸活動

	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度
5月		ミニトマトのプランター定植 ヒマワリの播種 参加者10名、学生1名、職員3名	ミニトマトのプランター定植 ヒマワリの播種 参加者14名、学生2名、職員2名	ミニトマトのプランター定植 アスター、サルビアの播種 参加者12名、学生1名、職員2名
6月		ハーブ（レモンバーム）と リシマキアの挿し芽 参加者10名、学生1名、職員3名	多肉植物の寄せ植え 参加者10名、学生1名、職員3名	交流会（参加者と学生の 話し合） 参加者12名、学生1名、職員2名
7月		ミニトマトの試食と ヒマワリ苗の花壇定植 参加者20名、学生1名、職員4名	ミニトマトの試食 参加者10名、学生2名、職員2名	ミニトマトの試食 参加者22名、学生1名、職員4名
10月		チューリップとムスカリ 球根のプランター定植 参加者8名、学生1名、職員1名	チューリップとムスカリ 球根のプランター定植 参加者12名、学生2名、職員2名	チューリップ、ムスカリ、アネ モネの球根のプランター定植 参加者14名、学生1名、職員3名
11月	キャンドルスタンド作り 参加者14名、学生3名、職員1名	ドライフラワーのアレン ジメント 参加者10名、学生1名、職員1名	担当者入院のため中止	布の絞り染（ベニバナ、クチ ナシの実、タマネギの皮） 参加者18名、学生1名、職員2名
12月		クリスマスツリー作り 参加者11名、学生1名、職員1名	押し花作り 参加者10名、学生1名、職員2名	各自の染めた布の発表会 参加者15名、学生1名、職員2名
1月		カイワレダイコンの播種 （水栽培） 参加者15名、学生2名、職員2名	押し花のしおり作り 参加者10名、学生2名、職員1名	ドライフラワーおよび造 花の壁飾り作り 参加者21名、学生1名、職員2名
学生名	加藤温子	木之下友海	額田智香子	小野綾子

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
5月	ミニトマトのプランター定植 参加者12名、学生2名、職員5名	ミニトマト、ジャガイモ 植えつけ、ヒマワリ播種 参加者10名、学生2名、職員5名	ミニトマト、ジャガイモ 植えつけ 参加者10名、学生2名、職員5名	ミニトマト、ジャガイモ の植えつけ 参加者10名、学生1名、職員2名
6月	ハーブ（ローズマリー他） の挿し芽、モヤシの播種 参加者11名、学生2名、職員3名	ハーブ（ローズマリー、セージ、 パナップルミント）の挿し芽 参加者12名、学生2名、職員4名	サツマイモの袋栽培 ミニトマト、ジャガイモの管理 参加者9名、学生2名、職員5名	サツマイモの袋栽培 ヒメヒマワリの播種 参加者10名、学生1名、職員5名
7月	ミニトマトの試食 ハーブティーの試飲 参加者15名、学生2名、職員2名	ミニトマトとジャガイモ の試食 参加者28名、学生2名、職員4名	ミニトマトとジャガイモ の試食 参加者29名、学生2名、職員5名	ミニトマト、ジャガイモ の試食 参加者23名、学生1名、職員3名
10月	チューリップのプランター定植 参加者8名、学生2名、職員3名	チューリップのプランター 定植、パンジーの播種 参加者12名、学生2名、職員2名	チューリップのプランター 定植、サツマイモの収穫 参加者10名、学生2名、職員3名	チューリップのプランター 定植、サツマイモの収穫 参加者10名、学生1名、職員2名
11月	押し花ハガキ作り 参加者15名、学生2名、職員4名	フラワーボトル作り 参加者12名、学生2名、職員2名	スライド写真で1年間を振 り返る、サツマイモの試食 参加者19名、学生2名、職員2名	押し花作り サツマイモの試食 参加者10名、学生1名、職員4名
12月	ピン入りポプリの作成 参加者17名、学生2名、職員5名	クリスマスリース作り 参加者12名、学生2名、職員2名	押し花作り 押し花のハガキ、色紙作成 参加者10名、学生2名、職員2名	押し花の作品作り 参加者10名、学生1名、職員4名
1月	貼り絵作成、モヤシ播種 参加者14名、学生2名、職員2名	カイワレダイコンの播種 押し花のしおり作り 参加者7名、学生2名、職員2名	花瓶（ガラスビン）に押 し花を付ける 参加者11名、学生2名、職員2名	卵のポプリ作り 参加者10名、学生1名、職員5名
学生名	中村真澄・松本葉月	柏木 薫・古川真希	荒木 唯・湯本恵美	中尾麻子